

緑り川

令和三年六月二十三日
作詞 大中臣正比呂

(一)

雪室ゆきむろに 外陽そとひあふれて 水みづの面おも

粉こなの備つづえも 恙つが無なく

あなたあなたの顔かほを 映うつし出です

あの日あの日を思おもう ああ、緑り川

(二)

山青やまき 野辺のべの 匂においに 誘さらわれて

浮うき草くさに住すむ 虫むしたちと

あなたあなたは帰かえる 夏休なつやすみみ

姿探さがした ああ、緑り川

(三)

天高あまく 稲穂いなほ刈かる 魚沼うおぬまに

利鎌とがま 磨みがいて 末すえを切きり

あなたあなたと背負せおう 黄金こがね束たば

夕食ゆうげの煙けむり ああ、緑り川

(四)

寒空さかまいとに 酒米さかまいと解といて 鎮まもります

室むろに納おさめた 麴こむぎ床こ

あなたあなたに手向たむく、 盃さかずきを

待ち侘わび願ねがう ああ、緑り川



【解説】

緑色みどりに澄すんだ上等じょうとうの酒しゅを、中国ちゅうごくでは「緑酒りよくしゅ」という。中華街ちゅうわがわに行くとき 街並まちなみみに紅色にじいろの提灯ちやうちんが下くだがって、賑にぎやかな感じかんじがするものである。この街まちで酒しゅを楽たのしみ、食しょく事を楽たのしむ。「紅灯緑酒こうとうりよくしゅ」の所以ゆえんである。

新潟にがたの魚沼うおぬま地方ちほうは雪深ゆきふかい。春はるは未なほだ残のこり雪ゆきが多く、雪解ゆきとけの水みづが溢あふれて 魚野川うおのがわに注つぐ。豪雪ごうせつとともに、「こしひかり」で名高なごい米こめどころである。

いや、諸兄しよあにも納得なうとくの、銘酒めいしゅの里さとでもあるから、柳都りゅうとの芸者げんしやさんの案内あんないで、新潟にがた駅の「ぼん酒館しゅかん」に行いき給たまえ。五百種いほひゃくしゆほどの新潟にがたのお酒おしゅがワンコインで飲のめるよ。いやいや、五回ごかいまでの「試飲しちんの盃さかずき」ですって。

無料むらうの塩しほと味噌みその備つづえで、きつと追加つぎコインとなるさ。帰かえりは古町ふるまちで ご飯食ごはんべかなあ。

越後えちごの夏なつは緑きの田園でんえんである。晩春ばんしゅんの魚沼うおぬまの川がわは鮎あゆが捕とれるせいで「魚野川うおのがわ」と云いうのであろう。この緑きの自然しぜんを想おもひ起おこさせるネーミングが氣きに入いって、今夜こんやは、清酒みどりかわ「緑川りよくがわ」にしよう。

お米こめの栽培かいたいは、春はるの苗床なえどこ、夏なつの草取くさとり、秋あきの収穫ととほ、そして酒造しゅぞうりだ。まるで、お酒おしゅは転生輪廻てんせいりんねだ。それに人々ひとびとの生き様いきさまが乗のってゆく。

演歌えんか、「緑の川りよくがわ」の由来ゆらいでもある。

古来こらいより、天皇てんかうは祭祀さいしの長ながとして、農事中心のうじちゅうしんの政まつりごとをなされた。そして、毎年まいねんの神事しんじは酒しゅと共に在ある。

更さらなる昔むかし、稲作いねぞうは日本にっぽんから朝鮮半島ちやうせんはんとうを経て大陸諸国たいりくしよこくに広ひろがったのである。